

『地域創生学研究』創刊にあたって

北九州市立大学地域創生学群は2009年に設立され、以来、地域の再生と創造を目指して地域とともに歩んで参りました。とりわけ、多くの地域創生学群生が大学を飛び出し、市民の方々と一緒になって地域の課題解決に取り組んできました。そして、そのような実践活動は幸いにして各方面から多くの評価を頂くことになりました。

また、地域創生学群ではそうした地域での活動を広く学内外に知ってもらうため、2010年から『地域創生マイルストーン』を発行してきました。地域創生学群の教育理念、同学群の特徴でもある地域での実習活動の概要、また地域創生学群での学びを通じた学生の成長などについて、これまで全7巻にて報告してきたところであります。

こうしたなか、2019年に設立10周年を迎えることになる地域創生学群では、その更なる飛躍を遂げるため、理論と実践の融合に基づいた「地域創生」を進めることとなりました。そしてこの度、その一環として、従来の『地域創生マイルストーン』を刷新し、新たに『地域創生学研究』を創刊することになりました。『地域創生学研究』はあらためて「地域創生」を学術的に捉え、学問としての「地域創生」を確立することを目指すものであります。「地域」について問う研究は長い歴史をもち、その豊富で深い知的蓄積を重ねてきていますが、我々地域創生学群の中からも、自らが掲げている「地域創生」という概念を既存の学術体系の中に位置付け、その学問的意義を追求すべきとの機運が高まりつつありました。そうした意識的背景には、近年になって数多く設立されるようになった他大学における地域系学部・学科の存在ということもありますが、やはりそれ以上に、地域をフィールドとして研究し、教育実践を行っていく当事者として、自らが抛って立つ知的基盤を確固たるものに必要性を感じるようになってきたことが偽らざる理由です。逆に言えば、そうしたものがあってこそ、「地域創生」も可能になると考えた次第でした。

さて、こうした思いのもとで編纂されることになった『地域創生学研究』ですが、本創刊号では、その特集テーマを「地域創生を問い直す」としました。これは学問としての「地域創生」を確立するための最初の試みであると考えています。様々な視点から「地域創生」を議論することで「地域創生」の学術的な出発点が定められ、今後の進展の基盤になると考えました。そして、このテーマを特集するにあたり、4名の先生からご寄稿を頂きました。それぞれ各専門分野にてご活躍されており、「地域創生」についても深い御見識のある方ばかりです。今回、先生方には、ご多忙のところ、打ち合わせから原稿のご執筆、および校正に至るまで多大なご協力を賜りました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

また本号では、学内から2本の自由投稿論文を掲載することもできました。いずれも地域創生学群の実践教育に関連したものとなっており、創刊号にふさわしいものとなりました。ちなみに自由投稿論文に関しては次号以降も広く募集致しますので、是非巻末の投稿規定をご覧ください。

今後、『地域創生学研究』は年一回のペースで発刊を続けていく予定です。この『地域創生学研究』の刊行によって、地域創生に関する学術的進展のみならず、地域の課題解決や地域に貢献する人材育成に広く寄与できるよう尽力して参りたいと考えております。末筆となりましたが、今後とも、皆様からの末永い御指導、御鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。